

- ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>
【立枯病（ピシウム菌） 30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する
は種12日前/1回】
 - ・ [キルパー](#) <ー>
【苗立枯病（リゾクトニア菌） 原液として60L/10a
所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する
は種または定植10日前/1回】
- 7 は種時に下記の薬剤を施用する。
- ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 土壌かん注（3L/m²） は種時/1回】
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) <14>
【リゾクトニア病 1000倍 土壌かん注（3L/m²） は種時/1回】
 - ・ [タチガレン液剤](#) <32>
【500倍 土壌かん注（3L/m²） は種時/1回】または
【みぶな 1000倍 土壌かん注（3L/m²） は種時/1回】

白斑病

留意事項

- 1 気温が低く、湿潤な条件が続く秋期に発生しやすい。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 密植を避け、通風をよくする。
- 3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【4000倍 14日/1回】

菌核病

留意事項

- 1 春・秋に発生する。
- 2 種子伝染する。
- 3 気温20℃前後で曇雨天が続くと多発生しやすい。

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 ほ場の排水をよくする。
- 4 密植を避け、通風をよくする。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

6 下記の薬剤を予防的に施用する。

- ・ [ロブラール水和剤](#) < 2 > 【1000倍 45日／2回】

白さび病

留意事項

1 QoI剤<< 1 1 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 ほ場の排水をよくする。
- 4 密植を避け、通風をよくする。
- 5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 6 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ユニフォーム粒剤](#) << 1 1 >> < 4 >
【9kg／10a 全面土壌混和 は種前または定植前／1回】
 - ・ [リドミル粒剤2](#) < 4 > 【10kg／10a 全面土壌混和 は種時または定植時／1回】
- 7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日／2回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

- 1 降雨が多く、気温が高い時期に発生が多い。
- 2 進展がきわめて速いため、発生初期の抜き取りが重要である。

防除方法

- 1 わら、またはポリフィルムなどでマルチングする。
- 2 被害株は速やかにほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) < 1 > 【4000倍 14日／1回】

根こぶ病

留意事項

- 1 降雨が続く秋期に発生しやすい。
- 2 気温が高く、日長時間が長い時に発生しやすい。
- 3 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>
 - 【30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する は種12日前/1回】
- 5 は種前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [フロンサイド粉剤](#) <29> 【30kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】
- 6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

アブラムシ類

留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 少雨のときに多発しやすい。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により、被害軽減に努める。
- 2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ粒剤](#) <4A> 【6kg/10a まき溝処理土壌混和 は種時/1回】
 - ・ [ジェイエース粒剤](#)、[スミフェート粒剤](#) <1B>
 - 【6kg/10a 作条散布後土壌混和 定植時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A> 【2000～3000倍 前日/3回】

コナガ

留意事項

- 1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。
- 2 春～初夏、秋の発生が多い。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 前日/2回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日/1回】
 - ・ [BT剤](#) <11A> (区野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハイマダラノメイガ

留意事項

- 1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日/1回】

ネキリムシ類

留意事項

- 1 根の株元をかみ切り、株はそこから折れて枯死する。

防除方法

- 1 ほ場内および周辺の除草を徹底する。
- 2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1 B>
【6kg/10a 全面土壌混和 は種時または定植時/1回】または
【6kg/10a 土壌表面散布 出芽時/1回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN>
【ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ 1000倍 前日/2回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日/1回】
 - ・ BT剤 <1 1 A> (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

アオムシ

留意事項

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日/1回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ **BT剤** <11A> (区野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照)

ヤサイゾウムシ

留意事項

- 1 成虫・幼虫ともに加害する。

防除方法

- 1 ほ場内および周辺の除草を徹底する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A> 【2000～3000倍 前日/3回】

キスジノミハムシ

留意事項

- 1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

防除方法

- 1 シルバーマルチを利用する。
- 2 は種時または定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1B> 【6kg/10a 全面土壌混和 は種時または定植時/1回】

ダイコンハムシ

留意事項

- 1 夏の終わりから秋にかけて多発する。

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3A> 【2000～3000倍 前日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハモグリバエ類

防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【5000倍 3日／1回】

ケラ

防除方法

- 1 下記の薬剤を土壌施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) <1 B> 【6kg／10a 全面土壌混和 は種時／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。